

(別紙)

第三評価結果

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

Ⅰ-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
Ⅰ-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
①	Ⅰ-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a・ ① ・c
<コメント> 社会福祉法人内木会の法人理念の下、保育の基本方針を掲げて保育事業を行っている。0歳児～3歳未満児保育に特化したあおば保育園の理念と基本方針、保育の目標、保育のテーマ、園目標は、同じ法人の運営する市内の保育園（0歳児～6歳児）と同じもので、法人全職員の運営マニュアル・事業計画書である「発展計画書」に記載され、職員に周知されている。また、園の案内で保護者に周知され、ホームページにも掲載されている。職員は発展計画書の読み合わせや研修等で理解出来るようにしているが、保護者に関しては入園説明会で示すだけで、分かりやすい資料等で説明する工夫や理解を得るための取り組みに至っていない。		

Ⅰ-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
Ⅰ-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
②	Ⅰ-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a・ ② ・c
<コメント> あおば保育園は、午前7時から午後8時までの保育、年度途中の受け入れ、休日保育など育児と就労の両立できる保育園として様々な地域の福祉ニーズに対応している。地域福祉ニーズは、行政計画である下野市子ども・子育て支援事業計画を始め、潜在的利用者の状況、幼稚園や認定子ども園の状況など様々な情報を法人として把握・分析している。 経営状況に関しては、園長が参加する法人の理事会で協議されている。近年の子どもに関する制度改正をふまえ法人として認定子ども園を新設し、各園の給食事業の連携を検討している。その様な中、園長は3歳未満児に特化したあおば保育園としてこの先の運営をしっかりと行いたいとの強い意志を持っている。保育園のコストなど経理上の課題は会計士から口頭であるがアドバイスを受けている。		
③	Ⅰ-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a・ ③ ・c
<コメント> あおば保育園の運営課題を園長は、職員の年齢構成が若い保育士に偏っていること、保育の質にバラツキがあることを上げ、第三者評価を経験することで、現状を確認し、園の運営に足りていない点、良い点を洗い出し、課題を明確にしたいとの前向きな姿勢を持っている。また、保育		

園と認定子ども園とが競合することに関しても経営課題として園長は捉えている。ただし、経営課題に関して職員への周知が十分でないことから、今後職員と共に課題を検討する場を設けるなど組織的な取り組みとすることが求められる。

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a・b・ ③
<p><コメント></p> <p>法人として策定する発展計画書には中・長期の展望や取り組みが書かれているが、明確な目標を持った具体的な計画となっていない。そのため発展計画書は目的を具現化する中・長期収支計画や資金計画を含まない。ただし、将来の事業のために法人として定額を積み立てている。</p>		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a・ ② ・c
<p><コメント></p> <p>法人の発展計画書の中にあおば保育園の事業計画が含まれ、それに添った事業計画書、事業計画に基づく行事計画書が策定されている。ただし、事業計画は保育園の事業や計画が全て盛り込まれた計画として整えることが求められる。</p>		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a・ ② ・c
<p><コメント></p> <p>事業計画は主任以上の職員によって、行事計画は関係する職員によって、保護者アンケートや職員の反省を参考に策定している。</p> <p>保育園の事業運営は保育課程に従って実施されるので、保育所の社会的責任（人権の尊重、子どもの発達支援、家庭支援、地域との連携・支援、保育および保育園運営の質の向上、苦情解決・説明責任等）を踏まえた上で、事業計画に含まれる様々な保育事業や保育の計画は、それぞれ目標、実施方針と実施方法を職員参加のもとに検討し、策定することが望まれる。</p>		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a・b・ ③
<p><コメント></p> <p>事業計画は法人の立てた発展計画書に含まれ、発展計画書は持ち出し禁止であり、法人の施設の全てに関して記載されているため、あおば保育園独自の事業計画としては内容が不十分である。保護者に周知している行事計画同様、その他の事業計画についても、保護者の理解を得られるように、園独自の事業計画を策定し、周知する努力が求められる。</p>		

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>職員は年2回自己評価を行い勤務評価として提出し、それをもとに園長が面接し、評価しているが、そこから保育の質の向上に向けた「組織的な取り組み」に繋がっていない点が課題である。</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a・b・ c
<p><コメント></p> <p>保育の質の向上に向けて組織的に取り組む体制が整っていないので、勤務評価結果を園長が分析してはいるものの、組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策を検討し、それを計画的に実施するまでに至っていない。</p>		

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>園長の役割は発展計画書等で明確にされ、園長は責任を果たす姿勢を示し、職員と共に保育に関わる努力を惜しまないことで、信頼関係を構築し、組織内でリーダーシップを発揮している。</p>		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>園の運営に必要な法令や遵守すべき法令等を園長は把握しているが、それをリスト化するなどしてすぐに引き出せる状態にしておくことや職員に周知する取り組みに工夫が求められる。</p>		
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>園長は、自己評価（勤務評価）・個人面談によって、現場の職員の意見・意向を把握し、若い職員に責任ある役割を持たせ、経験を積ませることで職員の自覚を促し、保育の質を高める取り組みに繋がるように指導力を発揮している。</p>		

13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>経営状況に関しては、園長が参加する法人の理事会で協議されるが、近年の子どもに関する制度改正による影響や課題を認識し、選ばれる保育園となる経営を心がけている。そのために職員の質を向上させ、職員の定着を図るため職員の働きやすい環境を整備している。今回の第三者評価の職員アンケートからも働きやすい職場であるとの記載が見られた。</p>		

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>保育士の他に看護師、管理栄養士が配置され、必要な福祉人材の確保はなされている。また、発展計画書に採用活動を推進するための具体的な取り組みが盛り込まれている。しかし、人材の確保と育成に関して方針を明確にして計画を立てて取り組む状態に至っていない。</p>		
15	Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>組織として期待する職員像は明確に示され、人事基準はあるが、昇進・昇格等に関する基準として明確にする必要がある。また、職員の育成を目標管理するシステムは未整備である。今後は、総合的な人事管理の仕組みを構築することが求められる。</p>		
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>ワーク・ライフ・バランスに配慮され、子育て中の職員が仕事を続けやすい職場となっている。年次休暇とは別に看護休暇制度の拡充により子どもの急な体調不良でも休みが取りやすく子育てとの両立が図れるように配慮されている。昨年、法人として職員の悩み相談窓口等を設置したが、今回の第三者評価の職員アンケートの結果、相談窓口等の設置の周知と相談しやすい工夫が必要であることが見て取れた。</p>		
Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a・b・ c
<p><コメント></p> <p>法人として期待する職員像は明確にしているが、保育園の理念・基本方針、保育の目標等の実現を担う職員の育成に関する全体目標や部門目標を明確にした上で、職員一人ひとりの目標を設定して行う目標管理制度には着手していない。今後の課題として取り組むことを期待する。</p>		

18	Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>法人がスキルアップ研修として、内部研修や専門の外部講師を招く等、その年ごとに職員の希望を聞きながら実施し、他の保育園を見学する機会もある。また、個人のスキルアップのための各種資格取得、研修参加について資格取得補助制度で研修手当を支給している。更に、個人で参加した研修などについては後日書類を提出することで費用の一部補助制度がある。ただし、それらが保育園としての職員の教育・研修に関する基本方針や計画を策定して、それに基づいて実施されるものではないので、今後、教育・研修計画を策定し、評価後見直すなど体系的に整備することを期待する。</p>		
19	Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>法人として組まれた研修等の機会は豊富にあり、その研修報告もなされている。しかし、それらの研修は一人ひとりの職員に求められる知識や技術等を明確にした目的ある研修計画に基づいたものとなっていない。今後、個別に目標を設定し、計画的に実施し、その評価と面接結果から保育にどう活かされているかを確認し、次回の研修に反映されるようなシステムを構築することを期待する。</p>		
Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の保育に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>実習生の受け入れは積極的に行われ、主任が窓口としてオリエンテーションを行い、クラス担任と一時保育の担任が現場実習を担当している。保育士の養成だけでなく看護師のための実習も受け入れている。しかし、受け入れ方針や効果的な実習となるためのプログラムなどがマニュアルに明文化されていないので、関係文書の整備が求められる。</p>		

Ⅱ-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	Ⅱ-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>運営の透明性を確保するため、ホームページで現況報告書、決算書、定款、役員報酬等が公表されている。しかし、その内容は社会福祉法人の現況報告であって、そこからは運営の特徴や良さを知ることはできない。そこで、保育園としての透明性を確保するためにも運営に関する情報公開を更に進めることが期待される。</p>		

22	Ⅱ-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>保育園における事務・経理等に関する職務分掌と権限・責任は明確にされている。保育園の経理を依頼している会計士に、財務管理等に関して助言を得ているが、外部監査など外部の専門家によるチェックまでは実施されていない。</p>		

Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	Ⅱ-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>0歳～3歳未満児の保育園であるため地域の行事に参加・交流の機会は殆どなく、園外散歩に出かけた際に近隣住民と挨拶を交わす程度となっている。5月のサマースクール、法人合同で開催される夏祭りや運動会では、地域の子ども達を始め未就学児や卒園児など異年齢児との交流の機会が設けられている。</p>		
24	Ⅱ-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a・b・ c
<p><コメント></p> <p>地域の高校生の保育の道に進む希望者の保育体験を積極的に受け入れている。また、子育て支援センターでは、地域の人ボランティアの協力がある。しかし、ボランティア受け入れマニュアルが無いので、今後のことを考えマニュアルを作成しておくことが必要である。</p>		
Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	Ⅱ-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>市内の関係医療機関リストや最寄りの医療機関の連絡先等は、全職員に配布されている発展計画書に記載されている。市のこども福祉課とは、市の委託事業も受けていることから連携が図られている。</p> <p>また、支援児保育に関して、茨城県にある「こども支援研究所」の研修へ職員が参加し、研究所の専門家からは子どもの様子を観察した上で支援方法のアドバイスを受けている。</p>		
Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	Ⅱ-4-(3)-① 保育所が有する機能を地域に還元している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>子育て支援センター、一時保育、体調不良児保育、子育てサークルなどの事業を実施しており、多くの親子の利用がみられ、離乳食や発達についての相談にも保育士・看護師が丁寧に対応している。また、3か月に1度児童館での子育てサロンに保育士を派遣するなどしている。</p>		

27	Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>延長保育、休日保育、一時預かり保育、子育てサークルなど、多様化する保育ニーズに取り組む事業が実施されて、多くの親子が利用しており育児相談や交流の場となっている。</p>		

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>子どもを尊重した保育について発展計画書にも明示されており、年度末の辞令交付時には全職員で確認している。言葉に表せない子どもの思いを日々の関わりの中から感じ取り保育に努めている。</p>		
29	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>送迎時に保護者と話をする機会を多く取っているため、話の内容など配慮するよう心掛けている。しかし、プライバシーの保護に関するマニュアル等は作成されていないので、保育士間や保護者との会話の内容や話す場所の設定等の配慮を含めたマニュアルを作成し、研修等を行いプライバシー保護等の権利擁護の徹底が図られることを期待する。</p>		
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>ホームページ上のブログでは、毎日の保育の様子がアップされており、職員のコメントとともに子ども達の楽しそうな姿がみられる充実した内容となっている。また、見学希望者には園長が対応に当たっている。</p>		
31	Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>入園前には園長とクラス担任が「あおば保育園のご案内」をもとに丁寧に説明を行い、安心して園生活が送れるよう対応している。</p>		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a・b・(c)
<p><コメント></p> <p>保育園等の変更の際の引き継ぎ文書は定められていない。アレルギーのある子どもなど支援が必要な子どもについては、法人内の幼稚園に入園する子どもに関しては、保育園から口頭での情</p>		

報提供を行い、幼稚園職員が来園する事もある。保育の継続性をもたせるためにも、引き継ぎや申し送りの手順、引き継ぎ文書の内容等を検討することが望まれる。

Ⅲ-1-(3) 利用者満足の上昇に努めている。

33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a・b・c
----	-------------------------------------------	-------

<コメント>
 保育参加や運動会などの行事後の保護者アンケートの実施や個別面談など保護者の意見を聞く機会を設けており、保護者からの意見も多く寄せられている。毎日の連絡ノートの記載や保育場面の写真やイラストなどが満載の園だより「てんとうむしつうしん」を発行するなど、園での子どもの様子をわかりやすく伝えている。保護者のニーズに合わせて、延長保育や休日保育なども実施されている。

Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。

34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a・b・c
----	--------------------------------------	-------

<コメント>
 法人として苦情等に関しては最優先して取り組むことが掲げられ、意見・要望に関する規定の中で苦情等の解決を図るための体制や手順が定められており、「あおば保育園のご案内」にも記載されて保護者へも周知されている。申出書、改善通知書等の一連の書式も整備されている。苦情だけでなく、より意見・要望を出しやすいように「親心メッセージカード」も作られている。

35	Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a・b・c
----	----------------------------------------------	-------

<コメント>
 保護者からの意見に関する規定は整備され、解決の仕組みも苦情解決と合わせて明文化されている。更に、送迎時など保護者との話をする機会に意見が出されることはあるが、より意見を出しやすい様に「親心メッセージカード」が作成されている。実際に保護者からの意見が出され活用されている。

36	Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a・b・c
----	-------------------------------------------	-------

<コメント>
 「親心メッセージカード」などからの意見は、職員で検討がされた結果を書面で保護者に回答している。寄せられた意見に対して、迅速に職員間で検討し、検討結果は園長より回答している。また、保護者からの同意が得られた事例は園だよりの「てんとうむしつうしん」にも掲載し、他の保護者へも周知されている。

Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。

37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a・b・c
----	-----------------------------------------------------	-------

<コメント>
 転倒などによるケガやヒヤリハットなどについては、朝・昼の打ち合わせの際に検討されている。例えば、遊具で遊んでいた時に起きた事故の後には遊ぶ際には必ず職員が付くようにしたり、

夏の季節にはデッキがあつくなるためマットを敷いたり、子ども達が安全に過ごせるよう事故の分析や対策が検討実施されている。ただし、室内活動、園外活動に対し保育室をはじめ園内や散歩コースなどの危険個所を記した危険個所マップや活動に対する配慮等のマニュアルの作成が望まれる。		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>感染症が発生した場合には、病名・罹患者の欠席状況を掲示し保護者に注意を呼び掛けている。感染症防止のために予防接種を勧めるなど、感染症を園内に持ち込まないようにしている。看護師による嘔吐物の処理方法などの研修を園内で行い、子どもの排泄物の観察などにより異変がみられる時には保護者に病院受診を依頼するなど、感染拡大防止に努めている。また、おもちゃなどもアルコール消毒や天日干しをするなど対応している。</p>		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>災害時の備蓄に関して、ピュアウォーター（調乳用の純水）や粉ミルクのみとなっていたが、今後、お米や味噌などを準備する予定となっている。大雪や大地震発生時の登園や迎えの際の対応の規定も作成されて保護者へも配布されている。</p>		

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a・㉑・c
<p><コメント></p> <p>法人が作成している「発展計画書」に、環境整備に応じた業務手順、職員の心得、保育士の行うべきことがデイリープログラムに沿って作成されている。しかし保育の実施時の留意点、子ども・保護者のプライバシーへの配慮等は含まれていない。標準的実施方法は保育を画一化するものではなく、保育をする誰もが必ず行わなくてはならない基本となるものとして、子ども一人ひとりの発達や状況等を踏まえた実施方法を定め、その実施方法にそぐわない保育が提供された時の対応方法を定めておくことも望まれる。</p>		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a・㉑・c
<p><コメント></p> <p>クラス会議、主任会議、全体職員会議等で保育を検証する仕組みは出来ている。子どもが必要とする保育の内容の変化や環境の変化等を踏まえ、職員や保護者等からの意見や提案に基づき定期的に見直しが行われることで、職員の共通意識を育て保育の質の向上に繋がるのが期待できる。</p>		

Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>入園時には、家庭状況と成育歴を含めた健康状況を把握し、更に家庭での生活リズムを数日間記録してもらい、保育園の生活にスムーズに引き継がれるよう配慮され計画が策定されている。全員が3歳未満児のため個別計画が立てられている。入園後は4月と8月に個人面談を行い保護者の意向も反映している。今後は、入園後に定期的に行うアセスメントの手順や実施記録の様式を整備することが望まれる。アセスメントの手法が確立されることにより、子どもの発達や家庭状況等に合わせた個別のニーズが明確になり、より適切な指導計画を策定することが期待できる。</p>		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>様々な会議が定期的に行われ、検討事項も明確にされている。しかし、報告事項が多く評価・見直しを掘り下げて行うのは時間的に難しい状況と見られる。各指導計画の評価・見直しを行う時期の設定等を定めることにより、個別の保育・支援に関する事項、標準的な実施方法に関する事項、保育の質の向上に関わる事項と課題等が明確になり、次の指導計画の作成に生かされると期待する。</p>		
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
44	Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>記録は適切に行われ共有される仕組みになっているが、記録が別々に整理されている。必要な記録をまとめるなど、保育に有効活用できるよう検討が始まったところであり、共有化が適切にすすむことが期待できる。</p>		
45	Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>個人情報保護規定等により子どもに関する記録は、管理・保管されている。しかし、記録の管理に対して個人情報保護の観点から職員に対して教育や研修を行い徹底した管理を目指したいと考えている。</p>		

A-1 保育内容

A-1-(1) 保育課程の編成		
A①	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>園長の下全職員が関わって保育課程を編成し、見直しが年度末に行われている。地域の実態、</p>		

保護者支援、保育時間などを考慮して編成されているが、子どもの心身の発達に沿った保育の方針や目標は、3歳未満児保育の特徴に配慮した内容となっていない。3歳未満児対象の保育園としての創意工夫のある保育課程の編成を期待する。

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開

A②	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a・ ② ・c
----	----------------------------------------------------	----------------

＜コメント＞
 3歳未満児の保育園として、床暖房などの設備、外の遊具、机、椅子等の用具が考えられ、安全で衛生的な環境が整備されている。現在もトイレ等の改善課題に取り組んでいる。午睡は一人用の午睡専用ベッドとタオルケットがレンタルで利用されている。外遊びはデッキからスムーズに芝生の園庭に出られるようになっている。1歳児の室内は、0歳児の部屋からの進級に対し戸惑わないよう家具の配置等を利用し配慮されていた。20名以上と各クラスの人数が多いことを考慮し、一人ひとりが状況によって落ち着ける場を作ることに留意されている。

A③	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a・ ③ ・c
----	---------------------------------------------	----------------

＜コメント＞
 一人ひとりの子どもの状態に応じた保育が心掛けられている。更に、3歳未満児の発達の理解を深め、子どもの気持ちを汲み取り、一人ひとりをどう受容していくのか、子どもへの言葉かけなど具体的な対応を職員間で確認し共有していくことを期待する。

A④	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a・ ④ ・c
----	---------------------------------------------------	----------------

＜コメント＞
 基本的な生活習慣を身につけはじめる時期として、一人ひとりの子どもの発達に合わせ援助することを基本に保育されている。現在の課題としては、3歳未満児の保育として保育士の経験年数などによる意識の差があることが挙げられている。日々の子どもの状況から個々の子どもの発達の時期を見極め、子どものやろうとする気持ちをどう育てていくかなど、職員間で状況を共有し子どもにとって適切な方法を検討する中で、保育の差異がなくなっていくことが期待できる。

A⑤	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a・ ⑤ ・c
----	---------------------------------------------------------	----------------

＜コメント＞
 0・1・2歳児の子ども達が身近な大人との関係の中で、自分の意志や欲求を伝え始め、大人が受け止めてくれることで自発的、意欲的になっていくようにと、様々な環境の整備に取り組んでいる。今後更に、3歳未満児の保育園として、個々に合わせた遊びや生活の場が、安心して挑戦でき様々な体験ができるよう創意工夫されることを期待する。

A⑥	A-1-(2)-⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	⑥ ・b・c
----	---------------------------------------------------------------------	---------------

＜コメント＞
 保育士6名と看護師2名で24名を受け入れている。保育室は広く、食事の場と遊ぶ場は区切られ、個別に午睡する場も確保されている。調乳室、沐浴室、トイレも整備されている。0歳児

<p>が成長するうえで、大人との継続的、応答的な関りが最も重要であることを考え、子ども一人ひとりと保育士が対応出来るよう、月齢や生活リズムに合わせ担当グループにし、広い保育室を利用しそれぞれの落ち着く生活の場を検討し保育されている。特定の保育士との信頼関係を作り、情緒の安定を図り、活発な探索行動や言葉の芽生えが促されることが更に期待できる。</p>		
A⑦	A-1-(2)-⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・ ⑥ ・c
<p><コメント> 保育室に隣接してトイレがあり、子どもに合わせた手洗い場等が設置されている。広い保育室や子どもの人数に対して、子どもが落ち着く場所をどう確保するかなど検討され保育がされている。2歳児は園内では年上になり、生活や遊びの面で自立している所が多く見られた。年上と見られる中でも、甘えたい時などは個別で対応するよう心がけているとのことであった。1・2歳児の年齢的な発達の特徴である周囲への興味・関心の高まり、言葉の発達、自己主張の始まり等による様々な行動に対し、子どもの関心や欲求を理解しその気持ちを受け止め、年齢に合わせた言葉かけなどの対応方法を職員間で共有することで、より適切な保育が行われると期待する。</p>		
A⑧	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	—
<p><コメント> 非該当</p>		
A⑨	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・ ⑨ ・c
<p><コメント> 現在、対象となる園児はいないが、気になる子どもに対しては保護者と連携し専門機関に相談しながら保育を行っている。しかし、配慮を必要とする子どもの保育の経験が少なく、今後の課題と考えている。発達に支援が必要な子どもへの理解、保育・援助の方法、他の機関等との協力・連携などについて研修していくことを期待する。</p>		
A⑩	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・ ⑩ ・c
<p><コメント> 午前7時から午後8時までの中で保育が行われている。延長保育の人数も多く、おやつなども軽食にするなど配慮されている。しかし、3歳未満児の保育として、家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を作ることに苦慮している。現在、早番の子ども的人数や年齢に合わせ保育室を分ける等落ち着いた安全な環境を作るよう検討され保育が行われている。今後も日々の保育を含め、子どもの状況により環境の整備や保育の内容や方法の見直しが行われることを期待する。</p>		
A⑪	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	—
<p><コメント> 非該当</p>		

A-1-(3) 健康管理		
A⑫	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>生後2か月からの保育に対応するため、衛生面を含め環境整備がされ健康管理を行っている。太陽熱による床暖房、オゾン殺菌脱臭機による室内の空気清浄、ミルクや飲料水にはピュアウォーターの使用、汚れにより区別された洗濯機と乾燥機の設置等が行われている。看護師が2名在籍し、0歳児の保育を中心に専門家として園児の健康管理を行い、保護者には毎月1回「ほけんだより」を作成している。日々の健康状態は連絡帳で細かく保護者に伝えられている。しかし、保健計画としてはまだ作成されていないので、今後全職員がそのねらいや内容を明確にしなが一人ひとりの子どもの健康の保持及び増進に努めるためにも計画の作成が望まれる。</p>		
A⑬	A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>健康診断・歯科検診は年2回行われ、結果は保護者に伝えられ職員間で共有されているが、診断結果を保健計画等に反映させるまでには至っていない。</p>		
A⑭	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>医師の指示を受け、専属栄養士が完全除去食でアレルギー食に対応している。子どもに必要な栄養素が、間違いや勘違いにより除去されないためにも、半年に一度診断書の提出が行われている。</p>		
A-1-(4) 食事		
A⑮	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>食育については、年間指導計画・月案等の中に含まれ計画されている。保育士が食事の配膳を行うことで、個人差やその日の体調に合わせて食べる量などの対応がされていた。1・2歳児のクラスは音楽を流すなど楽しい雰囲気をつくり、野菜栽培や2歳児の片付け手伝いなど「食」への関心を育てる取り組みも行われている。毎月の「食育だより」は、栄養面や季節の調理レシピなど様々な内容で栄養士・調理師により作成されている。給食試食会や給食サンプル掲示などを含め、乳児期の「食」の大切さを保護者に伝える取り組みが行われている。</p>		
A⑯	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>離乳食から始まる大切な時期と捉え、専属の栄養士が献立をたて、調理を行っている。保育士とは常に連絡を取っているが、今後は栄養士等が子どもの食事の様子を直接見て把握することで評価・改善が行われ、更においしく安心な食事が提供されることを期待する。</p>		

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
A⑰	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	㉠・b・c
<p><コメント></p> <p>送迎時には保護者と話をする機会を作り、連絡ノートにも記載されている内容のことも直接伝え、家庭での様子を聞くなど話しやすい環境づくりに努めている。連絡ノートは、同じ職員が記載するのではなく、毎日違うクラス担任がそれぞれの視点で子どもの様子を保護者に伝えるようにしている。</p>		
A-2-(2) 保護者等の支援		
A⑱	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a・㉡・c
<p><コメント></p> <p>個別面談や送迎時など保護者から子育ての悩みや不安などを相談しやすい雰囲気作りをしており、保護者と職員が一緒に心配事を共有し状況に応じて助言できるようにしている。</p>		
A⑲	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a・㉢・c
<p><コメント></p> <p>虐待が疑われる事例はないとのことだが、日々の保育の中で身体状況の確認をするなどで、子どもの異変に気づき早期に対応ができるようにしている。しかし、マニュアル等はなく研修も実施されていないため、今後、マニュアルの整備及び研修の実施が望まれる。</p>		

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）		
A⑳	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a・㉣・c
<p><コメント></p> <p>保育実践の評価は、クラス会議、主任会議、全体会議で行われるしくみが作られている。しかし、その評価は、保育士等が自らの保育実践を「自らの保育を捉える視点」と「子どもの育ちを捉える視点」で評価する内容になっていない。今後、保育士等の保育実践の振り返りを二つの視点で職員相互に話し合い評価し、それを園長と主任が他者評価することで保育の良さや課題がより明確になり、次の保育に向けて改善が図られ、保育の質の向上に繋がることを期待する。</p>		